

令和 5 年12月15日

幕別町議会議長 寺林 俊幸 様

総務文教常任委員会委員長 野原 恵子

議員派遣結果報告書

令和 5 年 9 月21日に決定された議員派遣について、次のとおり報告する。

記

- 1 派遣名 先進地視察調査（総務文教常任委員会）
- 2 目的 本委員会が所管する事項に関する先進地の取組の調査・研修のため。
- 3 派遣場所 音更町、平取町（平取町立二風谷アイヌ博物館）、伊達市
- 4 派遣期間 令和 5 年10月31日～11月 1 日（2 日間）
- 5 派遣議員 委員長 野原 恵子
委 員 畠山 美和、酒井はやみ、石川 康弘、
藤谷 謹至
議 長 寺林 俊幸 （以上 6 人）
（小島副委員長欠席）
- 6 派遣内容
 - (1) 【音更町】

視察項目	自校給食の実施状況について
視察目的	十勝管内で唯一、自校給食（校舎内で調理）を実施している音更町の取組内容や効果について調査するため。
視察概要	音更町教育委員会学校教育部教育総務課から自校給食の取組について説明を受け、音更小学校に移動し、栄養教諭から学校現場における調理と児童の食育の関わりについて説明を受けた。
内 容	音更町の自校給食は、小学校11校、中学校 5 校の計16校の町内全小中学校で実施している。 給食の提供に係る調理、配膳及び食器洗浄等の業務は、校長会、PTA 連合会を中心として組織する「音更町学校給食協議会」に委託しており、当該協議会が職員（調理員41名、補助員27名、代替員 7 名）を雇用するとともに、各学校に配置している。 栄養教諭 4 人は、基幹校、大規模校の 4 校に配置され、それぞれ配置校以外の 3 校を担当し、町内全ての小中学校

の学校給食の管理、食育指導を行うとともに、町内統一献立を作成している。

現在、学校給食費の会計は、私会計方式により各学校が管理しているが、教職員の働き方改革に係る取組の一環として、給食費の徴収事務等に関する負担軽減を図るため、令和6年度から公会計化に移行する。

所 管 自校給食の最大のメリットは、給食の調理時間になると、学校中に美味しい香りが溢れる環境の中で、子どもたちは給食をより身近に感じることができ、給食時間の前後には、調理員との触れ合いの中で、自分たちの給食が目の前で作られていることを実感し、感謝の気持ちが芽生えているとのことであった。

また、生産者、調理員及び子どもたちをつなぐ架け橋となればという思いから、栄養教諭が独自にビデオ動画を作成し、子どもたちのタブレット端末にアップロードして、給食時間に見てもらおうという食育を実施している。

動画は、メニューの由来、作り方、食材などについて楽しく説明するために工夫された内容で、調理中の食材を炒める音、出汁についての説明や取り方、料理を美味しくするための工夫や灰汁取りの大切さなど、作り手の調理員と給食を食べる子どもたちの距離がより近くなっていることが感じられた。

アレルギー対応については、調理室の区割りや調理員の確保などの課題があり、代替食及び除去食の提供ができていないが、自校給食は学校内に調理室があることで、「食べること」の関心を育み、毎日の学校生活が食育につながる環境になっていると感じた。

(2) 【平取町】

視察項目 平取町立二風谷アイヌ博物館

視察目的 アイヌ民族の暮らしと文化遺産の展示資料を視察し、アイヌの伝統を多角的に研修する。

視察概要 平取町立二風谷アイヌ博物館内見学

内 容 アイヌ文化の発祥の地であり、アイヌの伝統が色濃く残る平取町二風谷地区に「二風谷コタン」がある。その中にある博物館を見学し、当時の人々の生活文化や造形の伝統等の貴重な資料を見聞した。

所 管 「二風谷コタン」は広大な敷地であり、博物館を含めアイヌのチセ（家）、資料館等が点在し、アイヌ文化の歴史を知ろうえで貴重な施設であると感じられた。

特に博物館の特別展では、昭和7年から11年間、二風谷

で生活し、住民を無料で診察しながら、アイヌ研究を続けたスコットランド出身の外科医・人類学者のニール・ゴードン・マーロン氏が撮影したイヨマンテの映像資料が上映されるなど、アイヌ文化に対する見聞が深まるとともに、オリジナリティがあり、アイヌ文化のふるさとであると感じた。

幕別町においてもアイヌ文化拠点空間整備事業に着手しており、更にアイヌの文化、歴史及び生活等に理解を深め、共生について考えることが必要と感じた。

(3) 【伊達市】

視察項目	だて歴史の杜食育センターの運営について
視察目的	民間事業者が施設建設、維持管理、運営を行う PFI 方式を道内で初めて導入した「学校給食センター」の運営について、取組内容や効果について調査するため。
視察概要	伊達市教育委員会教育部学校教育課から食育センターの取組について説明を受け、施設を見学した。
内 容	伊達市では、隣接する壮瞥町と一部事務組合による学校給食センターを運営していたが、施設老朽化のため、PFI 方式による建替えについて検討を進め、平成27年10月に現在の管理運営事業者と契約を締結し、事業者による施設建設を経て、平成30年1月から供用を開始している。 学校給食は、伊達市内の小学校6校、中学校3校、義務教育学校1校と壮瞥町の小、中学校各1校の計12校に1日約2,500食を提供し、卵・乳アレルギーに対する代替食を専用調理室で下処理から調理まで行っている。 伊達市と事業者とは「炊き出し業務の協力に関する協定書」を締結し、平成30年9月6日の胆振東部地震（ブラックアウト）の際には、3日間の炊き出しを行ったほか、噴火や津波を想定した訓練時にも炊き出しを行っている。 健康増進に係る自主事業では、食育レストラン、食育講座、料理教室、食と運動のプログラムを行っており、レストランでは、数量限定で学校給食が食べられるほか、栄養士監修の食育ランチ、地場産の野菜、豚肉を使用したメニューが提供されていた。
所 管	施設の建設、維持管理、運営を民間事業者が行う PFI 方式による食育センターは、給食提供のほか、自主事業として民間のノウハウを生かしたレストランの経営など総合食育拠点として運営されており、市民にとって学校給食や食への関心を高める場になっていると感じた。

また、施設は大規模避難所に隣接して建設されており、災害時には一日最大 9,900 食を 3 日間提供できるなど、火山帯を抱える自治体として、防災機能を重視して整備されているという印象を受けた。

(1) 音更町 (10/31)



▲ 音更町議会議長挨拶



▲ 野原総務文教常任委員長挨拶



▲ 研修状況



▲ 研修状況 (音更小学校)



▲ 栄養教諭が作成したビデオ動画



▲ 音更小学校内の給食調理場

(2) 平取町立二風谷アイヌ博物館 (10/31)



▲平取町立二風谷アイヌ博物館



▲特別展「二風谷に生きたマンロー先生」

(3) だて歴史の杜食育センター (11/1)



▲伊達市議会副議長挨拶



▲野原総務文教常任委員長挨拶



▲研修状況



▲研修状況

(左：説明員 食育センター庶務係長)